

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
公衆栄養学実習	3年次	必修	実習	1単位（45時間）	真島 和徳 ※
授 業 概 要					
<p>地域・職域の公衆栄養活動について、保健所や市町村で行われている企画から実施・評価に至る一連の流れについて実習を通じて総合的に学習する。公衆栄養活動における情報の収集処理の仕方、問題の整理の仕方、活動計画の構成表の作成・実施・評価法を学ぶ。指導媒体（教材）の作成・実施・評価、地域における保健・医療・福祉・介護システムの理解、メタボリックシンドローム・生活習慣病予防等の各種教室の企画・実施・評価等の実際を学ぶ。</p>					
到 達 目 標					
<p>地域及び職域における公衆栄養活動の実際を踏まえて、公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラムの計画、目標の設定、実施、評価について体験する。公衆栄養学臨地実習を視野に入れて、調査活動、栄養教材作成など含め体験し理解を深める。</p>					
回	学 習 内 容				担当教員
1・2	公衆栄養実習オリエンテーション 意義 目的 地域・社会集団の実態把握				真島 和徳 ※
3・4	栄養・食事調査の手法の理解 食材の重量把握				
5・6	食事摂取量の測定の実際 秤量法、食物摂取頻度調査法、24時間食事思				
7・8	い出し法エクセルの活用 基本統計量の把握				
9・10	調査法の比較（妥当性）と集団による栄養アセスメントについて				
11・12	対象集団の分析と栄養アセスメントの実際 1				
13・14	対象集団の分析と栄養アセスメントの実際 2				
15・16	対象集団の分析と栄養アセスメントの実際 3				
17・18	まとめ 健康・栄養改善のためのプレゼンテーション 1				
19・20	都道府県や市町村における行政栄養士の役割				
21・22	健康日本21（2次）及び都道府県や市町村での健康・栄養・食生活施策と				
23・24	それに関わるデータ情報を収集し合わせながら課題解決の手法を学ぶ。1－2				
25・26	3				
27・28	4				
29・30	まとめ 健康・栄養改善のためのプレゼンテーション 2				
学 習 方 法					
<p>インターネット検索や文献検索、数値入力など理解したうえでコミュニケーションを密に、グループワークは作業分担すること。まとめの作業は丁寧に行い、理解を深めること。 栄養計算ソフトがインストールされた、ノートパソコンがあるとよい。</p>					
評 価 方 法					
<p>[評価方法] 欠席・遅刻、早退が極力ないことが望ましい。 評価は、個人課題レポート内容を重視し、課題レポートは、すべて提出された上で成績評価とする。</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>[教科書] 食事調査マニュアル改訂3版 はじめの一步から実践・応用まで 日本栄養改善学会（南山堂） [参考書] 管理栄養士養成課程「栄養管理と生命科学シリーズ」公衆栄養学の科学（理工図書） 日本人の食事摂取基準（2015年版）（第一出版） わかりやすいEBNと栄養疫学（佐々木敏：同文書院） 公衆栄養学ワークブック（株みらい） 国民健康・栄養調査の報告（健康・栄養情報研究会編：第一出版） 国民衛生の動向（厚生統計協会） よくわかる統計学<介護福祉・栄養管理データ編>（蘆志和、広田直子、石村貞夫：東京図書）等</p>					